



第16号
平成25年
(2013年)
7月・8月
・9月号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

「仏法聴聞とは、 我が身が地獄一定と

聞こえてくること」

いづれの行もおよびがたき身なれば、とても
地獄は一定すみかぞかし
歎異抄第二章

「学問」とは「問い」を「学ぶ」ことである、とある師から聞かされた。研修に出たら、人より勉強をした気になり、向上したように思う。また、研修に出ない人を非難する気さえ起きてくる。いったい研修とは何なのか。「近頃は、研修に出なければ落ち着かないという人が多いようですが、それはただ単に研修マニアになった、ということなのではないでしょうか」と、ある師がいわれていたのを思い出す。

仏法聴聞ということは、我が身に何かを付け加えていくことではなく、我が身に付いていることを一つ一つ剥ぎ取られていくことではないか。阿弥陀は、「少しでも向上したい」「人からの賞賛を得たい」という私をどこまでも壊しつつけるはたらきである。

私を慰撫(いぶ)したり、中途半端な甘言をしたりするのが阿弥陀ではない。私を全否定し、その全否定を全身

で引き受けざるを得ないはたらきを阿弥陀という。そのことを宗祖は「地獄一定」と言われた。

地獄一定のなかに自分自身を觀せられる。それこそが、地に足が着き第一歩を踏み出せる力となる。いわばそれこそが、本当に私にとつての「生きる力」となり得るのであろう。

真宗の聴聞とは、まさにこのこと以外にはないのであろう。このことを忘れて、苦しみ迷い、自他ともに傷つき合いながら、今ここに生きる私がいる。

研修を終えて

岡崎別院での研修の内容は濃く、覚えることも多く大変でしたが、とても楽しく研修することが出来ました。短い間に教えていただいたことは、海外にいても自分の為になることばかりでした。

掃除の大切さ、莊嚴や作法、案内の大切さ、門徒さんとの会話、どれも海外に行っても実践していけることばかりでした。

最後に、一番心に残っているのは、何をするにも先ず人がいなければ何もできない。教えをつたえていくにも、お勤めをするにも、お寺を守り、残していくにもまずは人がいなければ何もできない。だからこそ、人と人との輪、つながりがとても大切なのだ。という言葉です。この言葉を忘れずに海外でもその輪、繋がりを意識していきたいと思っています。



南米開教使

佐々木萌氏
はじめ



南米開教使

後藤智之氏
ともゆき

南米開教使 佐々木萌
はじめ

分陀利華

「和みの場」は私にとって

大切な「聞法の間」

四月二十七日（土）午前十時から午後二時過ぎまで、当院において第一回「和みの場」を二十七名のご参加のもと開催した。

昼食のなかで、参加者全員に自己紹介をしていた。多くは岩手、宮城、福島県から京都へ移ってこられた方々であった。知り合いのいない慣れない地で、また母子避難で家族が別々に生活しなければならぬ不安を抱え、生活されていることを目の当たりにした。

また、そのことをよそに、家族団欒の毎日のなかで不平不満を漏らし、スィスイといきっている私が恥ずかしく、また情けなく思えてならなかった。

「真宗の教えは、聞けば聞く程、自らの愚かさ・狡（ずる）さ・傲慢さが、いよいよ知らされて、今まで平気で踏みつけてきたことの一つ一つに頭が下がっていく教えた」とは、師の常の仰せであった。

私にとって、この「和みの場」は、私自身の愚かさ・狡さ・傲慢さを知らせていただく大切な聞法の間であり続ける。

「別院往来」 世界同朋大会



五月八日から十日までの間、真宗本廟で世界同朋大会が行われた。二〇一一年に行われる予定が、震災の影響で今年度になった。三日間の行程の中で三班に分かれて各種見学コースが組まれたが、その中の一コースが岡崎別院にも参詣された。中でも遠方からの参詣者は真剣に耳を傾けていた。

「濱風講」



今年も太田浩史氏主催による濱風講が六月五日に開催された。今年には教如上人四百回忌・清沢満之生誕百五十年ということで執り行われた。今回は山口昭彦先生が「教如上人と茶の湯」を、御手洗隆明先生が「教如上人研究のゆくえ」を、筒井紘一先生が「女性の茶の湯」を、亀井鑛先生が「清澤先生と同朋会運動」をそれぞれ講義された。

く結婚式く

六月二日挙式 本多家



六月八日挙式 杉山家



六月九日挙式 大谷家



ホームページ
<http://okazakibetsuin.com>

六月は三組の方が挙式されました。今後の予約は九月二十九日(日)と十月十九日(土)の二組が入っています。なお、詳細は、ホームページをご覧ください。

く第一回「和みの場」く



去る四月二十七日、震災の影響で京都に避難されている方々を対象として、横のつながりを深めてもらう集い「和みの場」が開催された。二十七人の参加があり、箏の演奏が行われた。そののち、昼食を取り、抹茶の接待もあった。

境内清掃奉仕



五月三十一日、京都教区仏教青年会・山城第一組仏教青年会により、別院の清掃奉仕が行われた。清掃終了後、バーベキューで懇親会が持たれた。

蓮華の集い



〔託児所〕

五月二十五日に真宗大谷派大谷婦人会岡崎別院支部「蓮華の集い」の第一回目が開催された。昨年十二月に発足し、研修という形で今年の二月に初回が開催された。



〔講義〕

第一回目は大谷大学教授の佐賀枝先生が「樹木がそつと教えてくれた物語」という講題で話された。座談会では、子育て中のお母さん方が、子育てにおける悩みなどを佐賀枝先生に相談されていた。



〔茶話会〕

次回は九月十五日(日)午前十時より、講師に大谷大学講師富岡先生を招いて実施の予定である。参加費無料。

〈法座案内〉

宗祖を訪ねて

- 七月三日(水) 十四時〜 輪番
○八月四日(日) 十四時〜 輪番
○九月三日(火) 十四時〜 輪番

味読正信偈

- 七月十三日(土) 九時半〜 輪番
○八月二十三日(土) 九時半〜 輪番
○九月十三日(木) 九時半〜 輪番

孟蘭盆会

- 八月十三日 九時半〜
長浜教区第十二組 即往寺 住職

京極真了師

秋季彼岸会

- 九月二十三日 九時半〜

本願寺派 教学寺 住職

板橋宏憲師

暁天講座 朝の法話

(各日朝六時四十五分〜)

〈各日、パンとコーヒーをご用意しております。〉

○七月二十五日 (木)

大谷大学副学長

みずしまけんいち

水島見一 先生

講題 救済とは何か

○七月二十六日 (金)

日本画家・インド美術史家

はたなかこうきよう

畠中光享 先生

講題

仏陀最期の旅

―涅槃経に学ぶ―

○七月二十七日 (土)

大谷中・高等学校校長

おおたきよし

太田清史 先生

講題

「樹心」の願い

―清澤満之師に聴く―

新設教室の案内

○「ジェンベ教室」

(アフリカの民族楽器)

山下正樹師の指導により、六月十七日より新設いたしました。

○「書道教室」

村井松韻師の指導により七月十一日(木)より新設いたします。

〈越後の宗祖を訪ねて〉

越後時代の宗祖を訪ねる旅を平成二十六年(二〇一四年)五月七日(水)〜九日(金)までの二泊三日で予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

詳細は左記までご連絡下さい。

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派(東本願寺)

岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町 26番地

電話・FAX 075-771-2921

<http://okazakibetsuin.com>
info@okazakibetsuin.com